紙様式）　　（Ａ３判横）

令和元年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 滑川町立滑川中学校 ）

目指す学校像	笑顔と幸せがあふれる滑川中学校

重　点　目　標	
	1，基礎的な知識・技能の定着を図り生徒一人一人が力をつける学習指導の充実 2，全教育活動における生徒理解を基盤とした組織的・系統的・積極的な生徒指導の推進 3，生徒・教職員の動きが地域社会に信頼感を生み出し、地域とともにある学校づくりの推進 4，自分を見つめた進路選択のための系統的なキャリア教育の推進

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者			
	学校関係者	４	名
	生徒	０	名
	事務局(教職員)	２	名

学　校　自　己　評　価

年　度　目　標					年 度 評 価（ １月２７日 現在 ）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	授業には落ち着いた態度で取組み、学習に対する意欲も高い。県の学力学習状況調査の質問紙調査では、「勉強していて分からないところがあったら先生に聞く」「勉強で分からないところはやり方を工夫する」の項目の値が低く、能動的に学習する習慣が身についていない。	学力向上を目指した主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	①全教科において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、指導者を招いた授業研究を行う。 ②話し合い活動やグループ活動へ意欲を持って取り組むための教材の工夫、やり方を工夫する。 ③自主学習の計画の立て方や方法について、学年や教科ごとに事例を提示する。	①全教科において指導者を招いた授業研究会を実施する。 ②生徒【1-②】でA+Bが80％を上回る。 ③生徒【1-④】でC+Dが25％を下回る。	①全教科において指導者を招いた授業研究会を実施することができた。 ②話し合いやグループ活動で積極的に意見や考えを発言している生徒は84.3％であった。保護者は70.7％、教員は97.3％だった。 ③毎日の家庭学習が1時間以上できていない生徒は25.9％だった。学年別では1年24.9％、2年37.7％、3年15.2％だった。	A	①次年度も継続して授業研究会を実施する。 ②教員と生徒との13％の差をつめることが必要。グループ活動を行っている実感を持たせるために、一人一つの役割分担を与えるなどの工夫をする。 ③家庭学習の課題だけを与えても、さらに二極化が進むだけだと考える。３年の進路に関する意識を１、２年にも持たせることが必要。そのために３年間を見据えた進路指導や、３年からの直接のアドバイスなどを受ける場面を設ける。
2	学校生活におけるルールを守る、誰にでもあいさつするなどの規律ある態度、基本的生活習慣は身に付いている。 コミュニケーション能力の低さから友人との些細なトラブルが増えている。	豊かな人権感覚の醸成と望ましい人間関係づくりの推進	①計画的にソーシャルスキルトレーニングやアサーショントレーニング等を実施し、自己肯定観を高めるとともに他者を理解し、コミュニケーション能力を高めるスキルを身に付けさせる。	①生徒・保護者・教員【2-②】並びに【2-④】でA＋Bが90％を上回る。	【2-②他の人の意見をよく聞き、相手の立場を理解して生活している】では、生徒96.5％、保護者89.8％、教員94.9％であった。 【2-④友達の良さを認め、協力できる関係づくりに心がけている】では、生徒96.1％、保護者94.7％、教員97.4％だった。	A	①次年度もソーシャルスキルトレーニングやアサーショントレーニングを計画的に実施していく。 ②【2-②他の人の意見をよく聞き、相手の立場を理解して生活している】 生徒A53.8％、教員A38.5％　差15.3％ 【2-④友達の良さを認め、協力できる関係づくりに心がけている】 生徒A67.9％、教員A48.7％　差19.2％ の数値から、教師側が生徒に求めるレベルを具体的に示し指導していく。 ③教員の異動に伴う指導の差をうめるため、職員の共通理解・共通行動を徹底していく。
3	ひまわりの里づくり活動では、町の公共施設や職場体験でお世話になった事業所などに拡大を図ることができたが、活動の意義や目的の理解が不十分なまま活動に取り組んでいる。	地域の教育力（施設や人材等）を積極的に活用し、学びと人間関係のネットワークを広げる。	①「ひまわりの里づくり」活動の意義や目的を理解し、地域との関わりを重視した活動にする。 ②学校だよりやホームページをこれまで以上に活用し、学校と地域の連携した取組について地域に発信していく。 ③地域学校協働本部の立ち上げに向けた準備を進める。	①【3-①】A＋Bがすべて93.4％を上回る。 ②【3-③】でC+Dが10％を下回る。 ③地域学校協働本部の立ち上げに向けた準備委員会の設置、計画を立案する。	①地域との交流を目的とした「ひまわりの里づくり」活動への積極的な参加については、生徒95.5％、保護者88.5％、教員94.8％であり、生徒や教員に比べ保護者の評価は低い。 ②学校だより等による地域への発信力については、生徒24.2％、保護者7.6％だった。 ③1月に準備委員会を設置。	A	①「ひまわりの里づくり」活動への参加に関しては、教員、生徒は概ね意義や目的を理解しているが、保護者の理解が低い結果となっている。学校だより等での情報の発信だけでなく、家庭と協力をするなどして、理解を深めていく必要があると考える。 ②3-③の生徒の項目で目標を下回ったが、情報発信に関しては、ある程度行えていると考える。次年度以降も、学校だよりやホームページを活用し、家庭・地域に対して積極的に情報の発信を行っていく。
4	「出前授業」「小中合同授業研究会」を実施するなど、小・中・高の連携が積極的に行われている。 各学年に応じた進路に関する情報提供ができているが、提供した情報を基に家庭において将来について話し合う機会は十分とはいえない。	各学年が進路情報の共有を図り、系統的な進路指導を行う	①中学校から小学校へ、高等学校から中学校への出前授業の充実を図る。 ②各学年の進路学習で、発達段階に応じた効果的な資料提供を行う。保護者や身近な大人と話し合いができる工夫をする。 ③社会体験チャレンジ事業を通して、望ましい勤労観や職業観を持たせる。	①小学校への出前授業は、各校１回以上、高等学校からの出前授業を１回実施する。小中合同授業研究会を5回以上行う。 ②【4-④】でA+Bが75％を上回る。	①小学校への出前授業は吹奏楽部が３校で１回ずつ、音楽担当が月の輪小で１回実施した。滑川総合高校からの出前授業は３年生を対象に10月末に実施した。授業研究会は国語、保健体育、特別支援学級で実施した。 ②生徒74.9％、保護者77.2％が進路に関して家庭で話し合いの機会を設けているが、学年別に見ると、１学年は59.6％、2年生は73.4％であり目標を下回っている。	A	①吹奏楽部は月の輪小学校の１０周年事業に参加し、新たな取組も実践した。出前授業については、来年度も継続していく。 ②目標をわずかに下回ったが、総合的な学習の時間を中心に、確実に進路学習を行っている。今後は、取組や成果などを生徒、保護者に伝えることが必要である。情報発信の工夫や、取組の意図を明確に提示していきたい。

学　校　関　係　者　評　価

実 施 日　令和２年２月４日
学校関係者からの意見・要望・評価等
・教員の指導力向上のために全教科での授業研究会は継続してもらいたい。 ・主体的な学習を促すための指導方法の工夫・改善を。教材研究の時間を生み出すためにも教職員の働き方改革の推進が必要ではないか。 ・行事や体験学習のための事前学習におけるグループ活動でも一人一人が目的意識をもって取り組めるよう指導してほしい。 ・１，２年生が３年生の体験談を聞くことは非常に効果的だと思う。ぜひ実施してほしい。
・教員が気持ちにゆとりをもって、生徒指導にあたることが大切である、教員同士もお互いを気遣い協力して指導にあたっていただきたい。 ・不登校生徒に対しては、必要に応じては医療機関等につなげるなど、個々に応じた対応をお願いします。
・「ひまわりの里づくり」の活動の様子が地域の方々の目につくようにするためにも集会所だけでなく、活動場所を拡大できればよいのではないか。 ・滑川町の良さを知り、滑川町を誇れる子供たちの育成に取り組んでほしい。 ・地域の教育力を活用して食育などにも取り組んでほしい。
・小中合同の授業研究会は大変意義があるものであり、今後も増やしていただきたい。 ・出前授業は生徒だけなく教員の指導力の向上にもつながる取組である。働き方改革の推進については、それぞれの取組における教育的効果の有無を踏まえ、検討する必要がある。 ・同様に社会体験チャレンジ事業についても若手教員の成長を促す良い機会である。 **※達成度Ａの後は、方策のレベルアップを図るなど次のステップを考えてほしい（No.１～４共通）**